クラブ紹介 私たちのクラブ自慢を聞いてください!!

水泳部

毎年、体育祭のクラブ対抗リレーでは、部員たちに担がれた主将が「泳いでトラックを完走」という伝統芸を見せてくれる水泳部。過去にはインターハイやJOCジュニアオリンピックなどの全国大会でも入賞者を輩出しており、1年生から3年生まで合わせて30名を超える大所帯のクラブでもあります。夏場になると、木曜と日曜以外の週5日、大阪国際大学のプールでみっちり泳ぎ、冬場は週2回ラクタブドームで練習、残りの日は体育館で筋トレ中心のメニューをこなします。「水泳部のモットーは“Let's enjoy swimming”。泳ぐことが好きな人たちが集まり、切磋琢磨しながら頑張っています」と語るのは主将の永田佳瑞さん。副主将の北田結大さんは「この3年間は顧問の玉木先生の指導を受けながら、ずっと練習に励んできました。その甲斐もあって個人メドレーでは高1からタイムが約7秒縮みました!」と笑顔で話します。夏にはスイカ割り大会、冬にはクリスマス会など部員たちのレクリエーションも豊富な水泳部。新戦力として今年度より加わった副顧問の髙橋先生は現役の社会人選手です。「我が水泳部は水泳が好きなら初心者も大歓迎! 明るく元気に水泳を楽しみましょう」と爽やかな笑顔で話されました。

左から副顧問の髙橋先生、3年生で主将の永田さん、同じく3年生で副主将の北田さん

高校書道部

文化祭での作品（2023.9.9）

「卒部書道パフォーマンス」（2024.5.22）

5月に本校グラウンドで催された「卒部書道パフォーマンス」をもって3年生8名が引退、現在1年生3名と2年生10名の計13名で活動中の書道部です。「部員みんなが一緒に考えてお互いの意見を尊重しながら、一つの作品を作り上げていくのが書道部の魅力。文化祭での書道パフォーマンスは本番こそ短い時間ですが、そこに至るまでの練習にはとても時間をかけます。題材・構図・パフォーマンスをみんなで何度も話し合い、新聞紙に何十回も練習して、本番を迎えるんです。昨年は自分たちで布を買い、イチから作りあげた衣装でパフォーマンスをしました。すごく感動して、あらためて書道部が好きになりました」（部長・2年生 津秋凪佐さん）

今年からは、新たに『書道パフォーマンス甲子園』にも挑戦した書道部。今までの書道部では経験したことがない大仕事でした。「書道部に入って、他ではなし得ない経験をたくさんしています。忙しい日でも部活に行くとホッとします。仲間とともにこの部活ができて、本当に幸せです。これからもみんなで書道部を盛り上げていきたいです!」と話す、津秋さんの笑顔からは充実した高校生活を垣間見ることができました。

清水校長先生のコラム

人間をみがこう!

時を守り、場を清め、礼を正す

1学期の始業式で「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉のサインについての話をしたことを皆さんは覚えていますか。進路サポート室横の手洗い場付近にこの言葉が刻まれています。この言葉は、本校の校訓である「人間をみがく」ための基本であり、本校が目指す生徒像のうち、「コミュニケーションができる人」「心を開く人」「思いやりのある人」と特に深い関係があります。

毎朝、校門の前で生徒の皆さんの登校の様子を見ながら「おはよう!」と声をかけていますが、その反応は様々です。私の姿を見て私が声をかける前に笑顔で「おはようございます」と言ってくれる生徒もいます。それは本当に気持ちの良いものです。実際には、こちらの「おはよう」という声に反応して、「おはようございます」と返してくれる生徒が大半を占めますが、中には、まったく反応もせずに通り過ぎていく生徒もいます。非常に残念です。朝の挨拶のできる人は登校時間も早い人が多いです。逆に遅刻ぎりぎりに来る人は挨拶をする余裕もないのか、こちらの声掛けにも全く反応しない生徒もいます。

挨拶ができるかできないかは日頃の習慣の問題だと思っています。それは時間を守るとか、身の回りをきれいにすることとも相関関係があります。教室や廊下が汚れていたりゴミが落ちていたりしたときに、皆さんはどうしていますか。気が付いた人が掃除機をかけたりゴミを拾ったりしてくれると学校は常に美しさを保つことができます。

私が初めて外国に行った時の経験ですが、今でこそ自動ドアが主流ですが、当時のお店のドアはほとんどが観音開きの扉でした。前を歩いていた人が必ずと言っていいほど、あとに来る人のために扉を開けたまま待ってくれているのです。また、エレベータに乗っていると、「After you」といって扉が閉まらないようにしながら先に降ろしてくれるのです。常に人への思いやりを意識した行動がとれるのはすばらしいと感じました。自分のことで頭がいっぱいで気持ちに余裕がないとこのようなことはできませんね。

時間に余裕をもって生活を送ることが「人間をみがく」ための第一歩です。朝少しでも早く起きて登校すれば、今まで見えなかったことが見えてくるはずです。その日1日も充実するはずです。毎朝、校門まで走り込んでいるあなた、ちょっと生活を変えてみませんか。